

# 藤川球児

次の世代へ。

*Message for next generation*

**KYUJI  
FUJIKAWA 22**



# 悩み、考え、そして前に進む。

人は悩みや挫折を乗り越えるときに成長できる。

観客の注目が集まる最終回。最後のドラマを期待する人々が待つ中を、彼はいつもと変わらぬ所作でマウンドに向かう。

—藤川球児— もはや代名詞となった直球を武器に、果敢に強打者に挑み、数々の名勝負を繰り広げてきた。プロの投手となって10年が過ぎ、球界屈指のピッチャーとなった男は、いかにして自らを成功に導いたのか。

ドラフト1位で阪神タイガースに入団した球児であったが、そこからの6年間は、けが等もあり苦難の時代が続いた。しかし2004年のフォーム修正をきっかけに1軍へ定着し、セットアッパーという仕事場で次々と結果を出していく。クローザーに転向後も最多セーブを記録する等、今日迄連続して活躍し続けている球児。しかし常に自分の前には大きな壁が立ちはだかり、苦闘の連続であったという。『人生は円を描きながら進んでいくものだと思う。何か「成功」と呼べるもの（目標）を設定して、その成功のために「努力」をし、努力をするために「精神力」や「忍耐力」を養って、「結果」を得ることで「自信」が生まれ、やがて「成功」を収める……という円。当然、その間には

「悩み」や「挫折」を感じることもある。実はこれが、ひとつの円の中でとても大きな比重を占めるのだけれど。悩むからこそ考えるし、努力もする。止まりそうになりながらも、また前に進むことができるのは、悩みや挫折を乗り越えるときに成長できると知っているから』

悩みや挫折などなく、少しの努力で達成できてしまう事など「成功」とは言えない。ましてやプロの世界で継続して結果を出し続けることが、どれだけの努力を必要とするのか計り知れない。高い目標とノルマを自らに課し、たゆまぬ努力を続けてきたから今の彼の姿があるのだ。そんな球児も子供のころはなかなか一番になれなかった。

『僕は子供のころからずっと「一番になりたい」と思ってきた。なかなか一番になれなかったからだと思う。野球では大事な場面でよく打たれたし、ココという時に打てなくて負けた記憶ばかり残っている。たしか、準優勝が多かった。でも僕は、一番になれなかったからこそ「上を目指したい」という欲求が生まれ、頑張ることができた。』簡単には1番になれなかった事が、この向上心と負けん気を育み、努力し自分に打ち勝つ術を身につけてきたのだ。それが自分を強くし、自信を



# 次の世代になにかを伝えたい。

壁にぶつかった時に大切なのは「考える」こと

持つ事ができる。目標にブレることなく突き進んでいける。

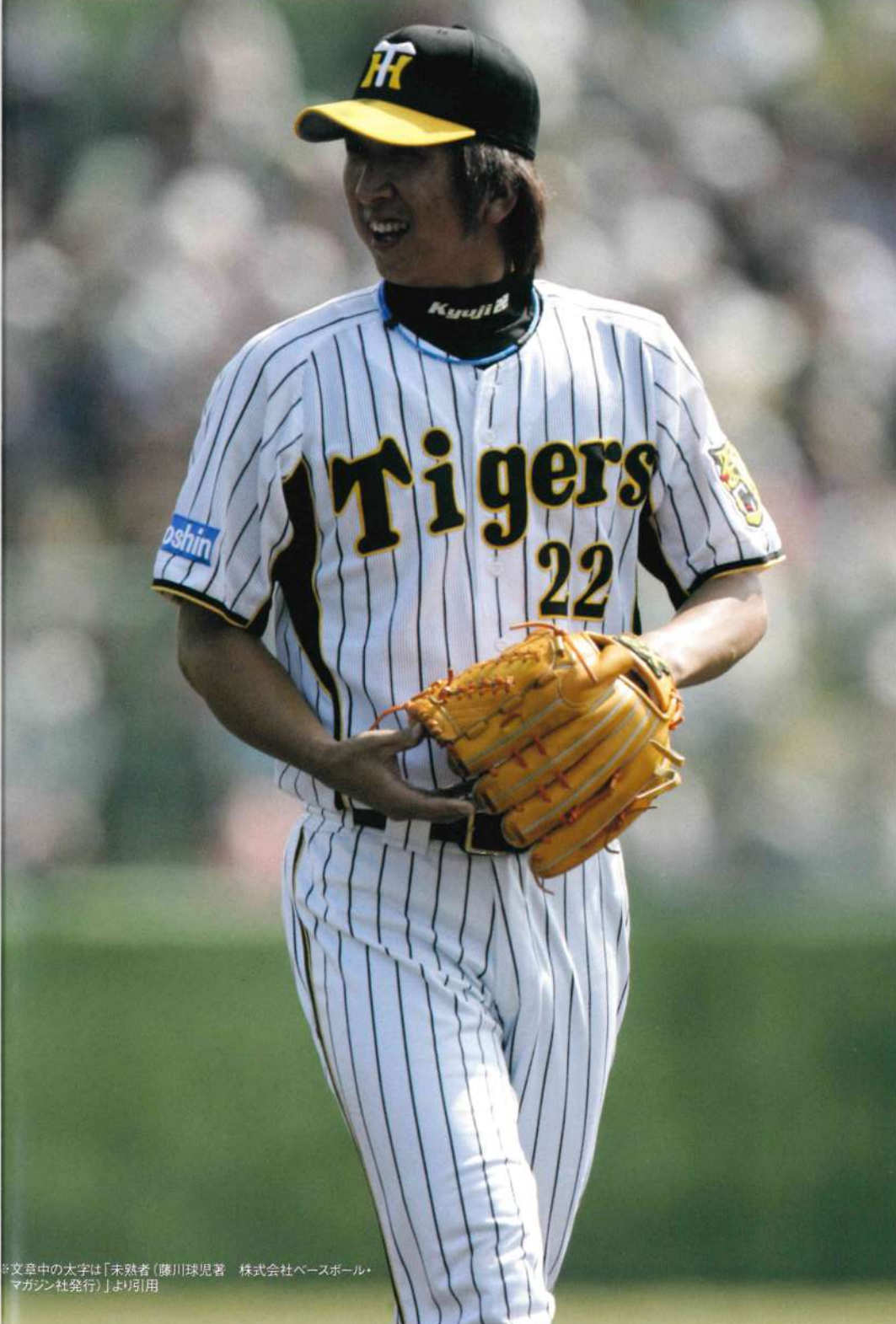
夢を思い描き、その夢の実現の為に一步を踏み出してから、度重なる困難に打ち勝ち、今日プロ野球選手としての大舞台に立つ球児。プロ野球選手として11年目の今、彼は次の世代へメッセージを伝えようと考え始めている。

『いつのころからか、僕の投げる姿に「感動した」と言ってくれる人たちが現れた。そして、世間からの注目度が上がるにつれて、僕は、野球を通して何かを伝えたいと思うようになった。誰かにあこがれて、その人を目標に進むことも、現時点の僕にはまだまだ必要だけど、そろそろ僕自身が、子供達や学生にあこがれの気持ちを抱いてもらい、プロの若手に目標とされることで、下の世代に何かを伝えていかなきゃいけない時期に来ていると思う。』

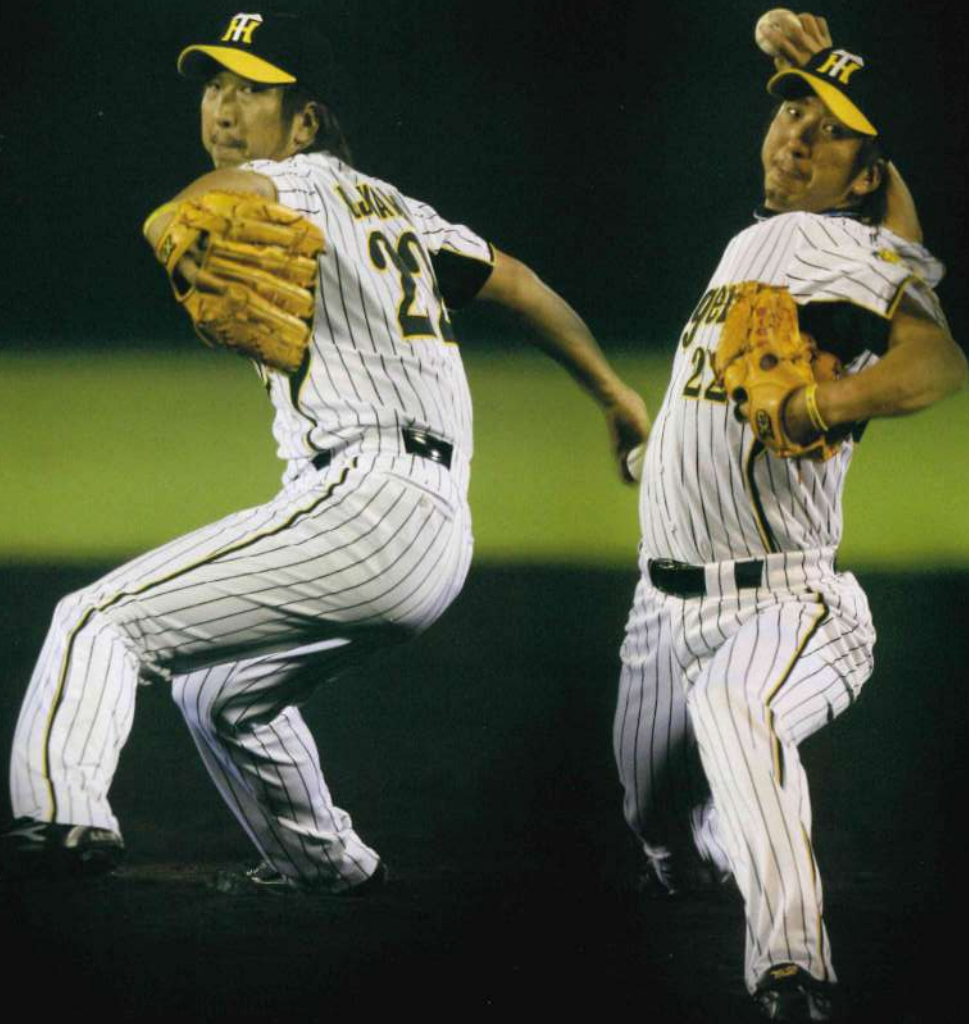
現状に満足せず、常に前へ前へと歩みを止めようとはしない。投手として大きな成功を取りたいまでも自ら戒めている。それは入団から6年間の苦闘の歴史と、努力して勝ち取ってきた成功の両方の歴史があるから。自らが体現してきた事を、次の世代に伝えていきたいと彼は考えているのだ。

『これからも何度となく壁にぶつかるだろう。でもそれは悪いことじゃない。僕が何年も続けて好成績を残せているのは、高い壁を乗り越えてきたからだと思う。子供のころから野球が大好きで、せっかくプロになれたというのに、6年間も芽が出ず、クビになりかけたこともあった。その壁がどれだけ高かったかは、想像してもらえないはずだ。』『どんな職業でも、仕事をしていて壁にぶつからないはずはない。ストレスを感じないわけではない。そんなときに大切なのは「考える」ことだと思う。一つひとつの壁を乗り越えながら、「何か」を残していくことが必要だと思う。世の中にも、自分自身のなかにも。』彼の言葉には自らを切り開いてきた人間だけが持つ真の力強さを感じるが、本人は「むしろ弱い人間」だと言ってはばからない。

始まった2009年シーズン。直球を極めた守護神がどんなメッセージを残してくれるのか、今年も彼から目がはなせそうにない。ザナックスもまた、未来へ感動を届けられ、注目に値する存在であり続けたいと願っています。



# 感動No.1



不安を消し去る唯一の方法は極限まで努力するしかない  
どれだけがんばったか、できることは全てやりつくしたか  
失敗の許されない局面で、頭によぎる負のイメージを振り払い

己を信じて渾身の一球を投じる

この勇氣は、一流の努力をしてきた者にしかもてない

そして、その先の勝利の歡喜も敗戦の悔しさも

覚悟を決めて挑んだ者にしか、味わう資格はない

「限界まで努力しただろうか」その答えは

言葉にはできない程の

心の底から沸き上がる思い「感動」が

体中を覆っているかどうかにある

ザナックスはスポーツを通して

本物の感動を伝えられる

「感動No.1ブランド」をめざします。

